

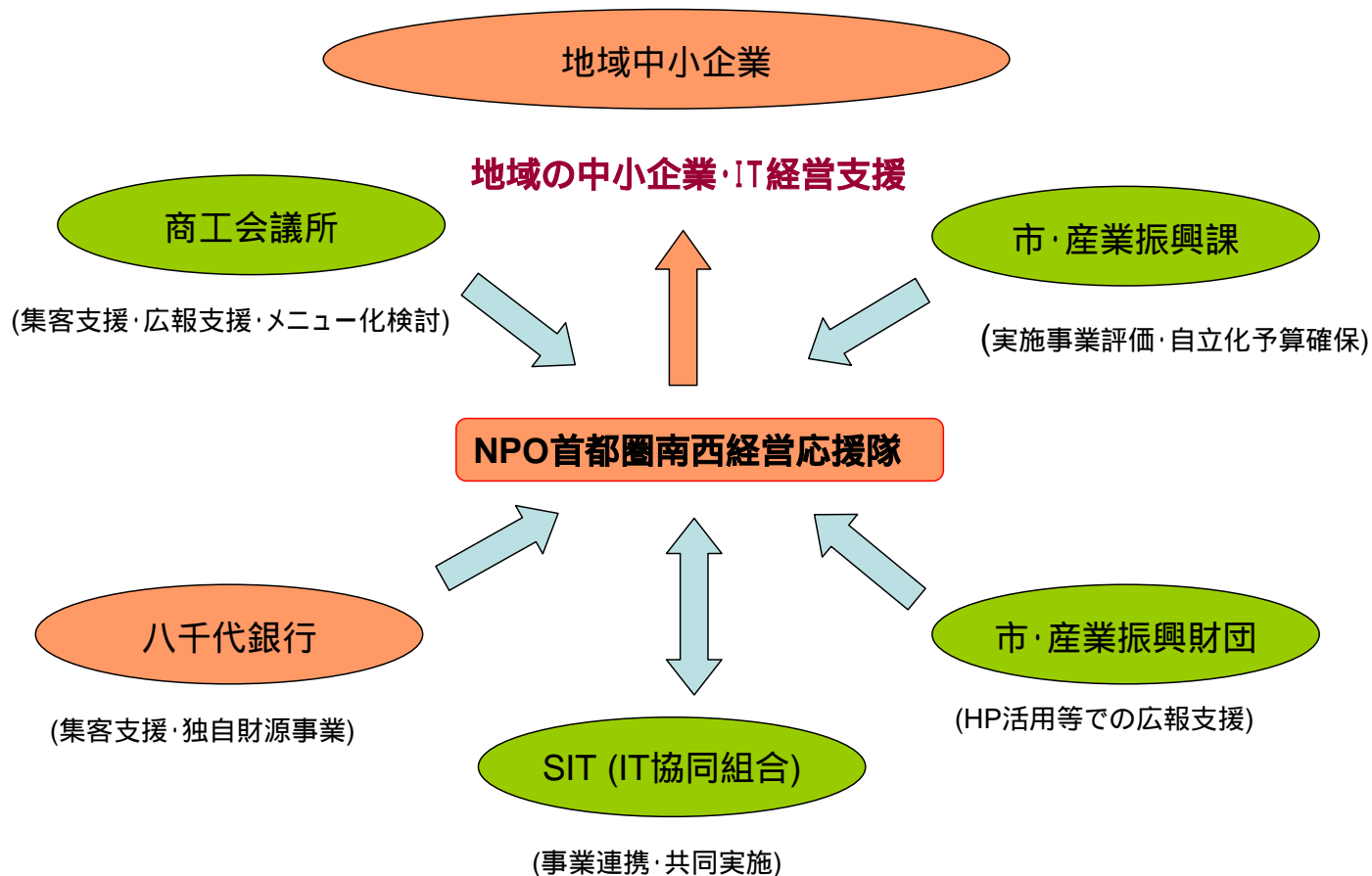
# 首都圏 金融機関を中心としたITC組織立ち上げ提案



# H16年度からの取組み 「IT経営応援隊」

相模原地域

南西地域モデルPJ活動:チーム編成(H16)



経営課題解決 収益向上 財務体質改善

湘南地域

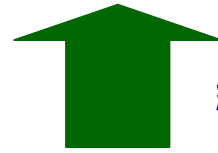


雇用増

税収増

サービス向上  
会員増

経営支援



協力

協力

市町自治体

産業振興財団  
商工会議所等

支援機関

支援機関

協力

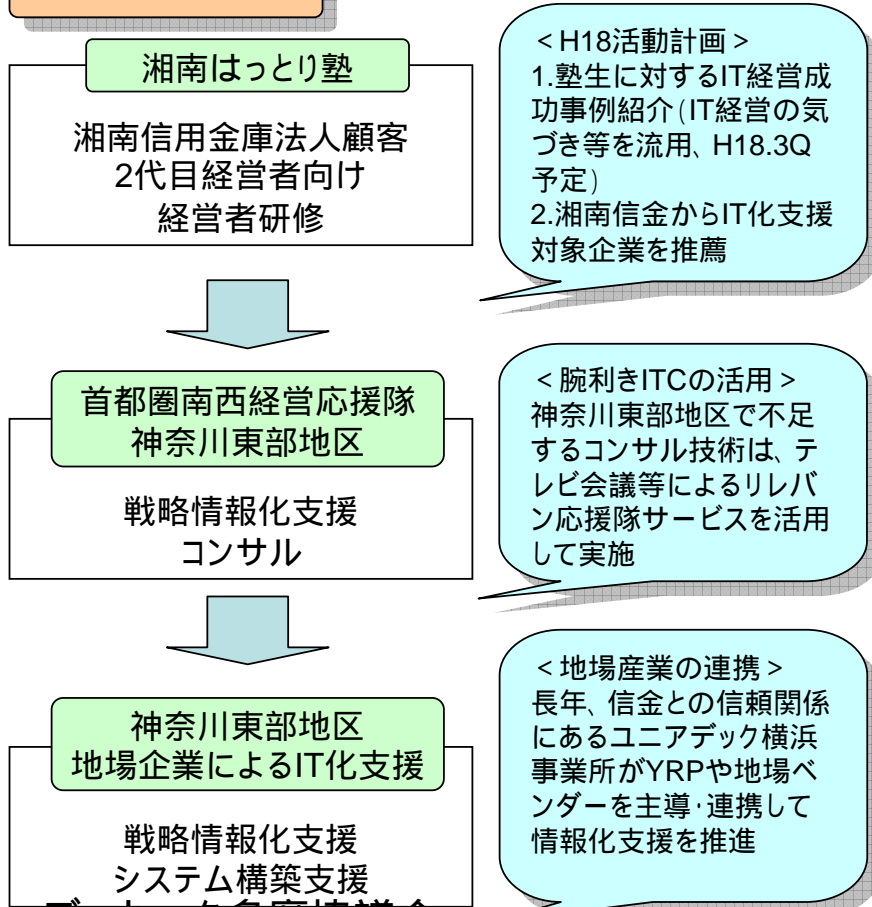
協力

応援隊中核組織

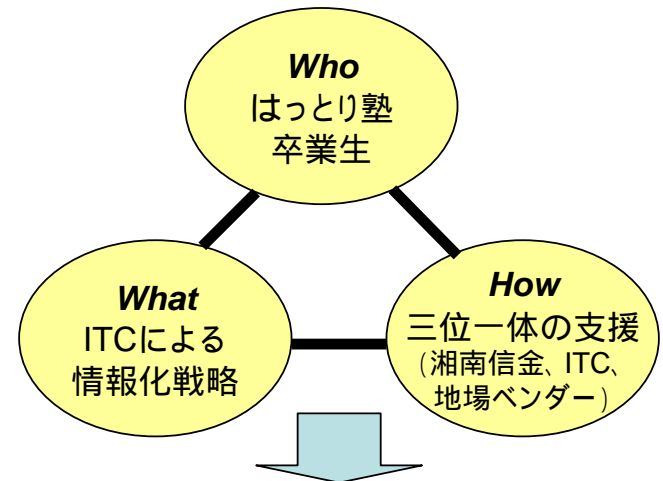
# 継続的に案件発掘できる仕組み作りを - 湘南信金との今後の連携策 -

H17年度までは、不定期にITコンサル企業が発生  
 (H16/中～H17/末までに湘南信金から6社の成熟度診実施を依頼されて対応)  
 H18年度より、定量的に案件が発生する仕組みを検討依頼中

## 1. 案件発掘の流れ



## 2. 湘南信金連携モデル

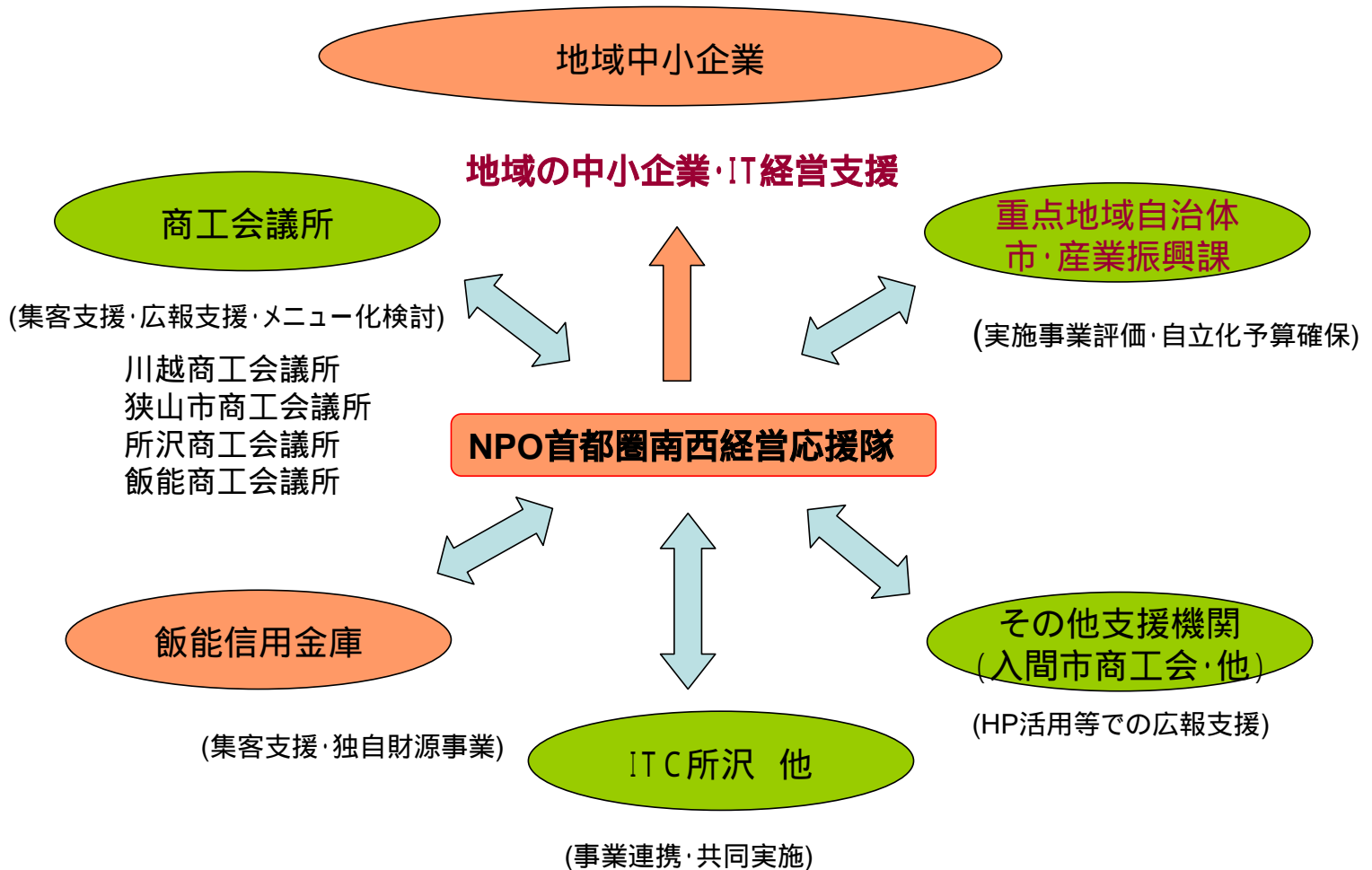


- 湘南信金の融資事業拡大
- 地域経済と地場産業の活性化
- ITCの継続的コンサル業務発生

**湘南信用金庫連携策**  
 首都圏南西経営応援隊  
 神奈川東部地区代表 鹿毛

# 埼玉西部地域

## 埼玉西部地域経営応援隊



## 17年度の活動

### 埼玉西部経営応援隊 飯能信用金庫との連携

#### 1. 飯能信用金庫が経営応援隊に参画するまでの経緯

関東IT経営応援隊の重点活動目標は“地域支援コミュニティの形成”であった。  
埼玉西部地域で具体的に地域中小・中堅企業支援のための連合体創りに、商工団体や金融機関や建設業協会などに対して応援隊員として参画を働きかけて、コミュニティ形成活動を始めたのは17年3月頃からだった。

当初は‘IT経営応援隊’‘ITコーディネータ’については何処に行っても、全く無知であった。  
多くの資料を作成し、回数多く訪問説明を通して、経営応援隊施策の経緯、ミッション、役割を説いて、参加協力を求めて立ち上げたが、まだ十分理解されているとは思えない面がある。

とりわけ、金融機関は経営応援隊という支援機関の連合体の理解や納得にかなり慎重であり、金融機関の対応窓口の担当者は理解、納得されても金庫内での経営幹部(常務理事など)の根回しと了承に非常に多くの時間を要した。  
当然の判断ではあるが、対象企業が任意会員組織の商工団体などと違い、地域金融機関は信用第一の企業体であるため、顧客に対する支援の責任意識と経営応援隊へ参画の信頼度の確保が非常に強いためだったと言える。

#### 2. 飯能信用金庫との連携活動

- 1) 地域ブロック8支店の得意先企業向け「経営者研修会(1日コース)」実施・・・15社、17名参加 5支店長、常務理事見学。
- 2) 各支店の中堅得意先担当 50名へ「IT経営の理解と普及セミナー」2時間コース実施。 常務理事計画、企業担当係への認識強化。

## 18年度の活動計画と目標

### 1. IT経営に意欲のある企業の掘り起こしとIT経営研修会

### IT経営実現企業の掘り起こし

「経営者研修会 1日コース」 8つの支店ブロックで計5回 開催を計画、実施

経営者研修会参加企業へのIT経営支援ニーズ調査、及び要望企業への積極的訪問とヒアリング実施

第2回 得意先企業担当者向け「IT経営の理解と普及セミナー」の実施

### 2. IT経営を目指す企業への融資促進策と結びついたITコーディネータの支援連携のスキームの計画、実現

### 3. IT経営実現の成功事例の創出

年商5億円以上、従業員20名以上の経営革新に意欲のある企業の発掘と、IT経営のための経営成熟度診断と提言及び

IT利活用の成功企業の実現

# 首都圏南西地区 経営応援隊実務活動体制

首都圏南西地域中小企業



IT経営支援



IT経営支援



IT経営支援

首都圏南西地区経営応援隊連携機関

各地区  
商工会議所  
商工会

地域金融機関

各地区  
自治体 / 支援機関  
(市町村)

首都圏南西地区経営応援隊実働部隊

NPO  
首都圏南西経営応援隊

中小企業診断士  
三多摩支会

NPO  
IT経営推進機構

ITC武蔵野

ITベンダー情報交換会  
たちかわIT交流会

サイバーシルクロード  
八王子

NPO  
経営支援21

三多摩経営応援隊事務局: ITコーディネータ多摩協議会  
協力: 日本ユニシス、ユニアデックス

## 首都圏 金融機関を中心としたITC組織立ち上げ提案の背景

### これまでの活動経緯

ITC多摩協議会では、ITSSP時代から、地域商工会議所、(社)首都圏産業活性化協会等と連携して、経営者研修、個別IT経営コンサル事業を進めてきた。その活動の中から、以下のように、金融機関との連携が生まれてきた。

・14年度～18年度:西武信用金庫

ITSSP経営者研修事業、個別コンサル

・16年度:湘南信用金庫

ITSSP個別コンサル事業

・16年度:八千代銀行相模原支店

相模原地区経営応援隊発足し参加

・16年度:八千代銀行相模原支店

IT経営応援隊経営者研修、成熟度診断、個別コンサル

・16年度:多摩信用金庫

たましん法人総合サービスBOB 相談会企画

・17年度:八千代銀行相模原支店

経営者研修、成熟度診断、個別コンサル

・17年度:湘南信用金庫

IT経営応援隊(湘南経営応援隊発足)、成熟度診断

・17年度:飯能信用金庫

IT経営応援隊 経営者研修、成熟度診断



## One of ITC の企業支援 事例

	企業名略称	社長とITCとの出会い						公的支援 個別契約				
		交	研	紹	商	金	診	A IT	B 推	C専	D県	E 個
1	KI											
2	WS											
3	SO	→										
4	HC	→										
5	ND											
6	KG											
7	KM											
8	MK											
9	OY											
10	KD											

IT活用型経営革新モデル助成金

異業種交流会、 経営者研修、 紹介、 商工会議所支援、 金融機関連携、 成熟度診断

A：経済産業省ITSSP、 B：IT推進アドバイザー、 C：専門家派遣、 D：県その他アドバイザー、 E：個別契約

## 個別コンサル：金融機関からの紹介 => 成熟度診断のステップ

	企業名略称	社長とITCとの出会い						公的支援 個別契約				
		1 交	2 研	3 紹	4 商	5 金	6 診	A IT	B 推	C 専	D 県	E 個
11	HK											
12	GK											
13	KK											
14	SW											
15	YM											
16	KH											
17	SM											
18	FC											
19	SH											
20	OT											
21	AC											

16年度  
IT活用型経営革新モデル事業採択

18年度  
戦略的IT化促進事業応募中

ITSSP

IT経営応援隊

異業種交流会、 経営者研修、 紹介、 商工会議所支援、 金融機関連携、 成熟度診断

A：経済産業省ITSSP、B：IT推進アドバイザー、C：専門家派遣、D：県その他アドバイザー、E：個別契約

# 首都圏 金融機関を中心としたITC組織立ち上げ提案の背景

## 18年度活動予定

- ・18年度: 中小公庫横浜支店  
経営者研修
- ・18年度: 中小公庫多摩支店  
経営者研修(新宿支店、池袋支店にも呼びかけを検討中)
- ・18年度: 西武信用金庫 (社) 首都圏産業活性化協会との連携の一環として  
経営者研修、成熟度診断、個別コンサルの企画中
- ・18年度: 八千代銀行相模原支店  
経営者研修、成熟度診断、個別コンサル
- ・18年度: 多摩信用金庫  
経営者研修(IPA非採択案件)、個別コンサル他予定
- ・18年度: 湘南信用金庫  
個別コンサル
- ・18年度: 川崎信用金庫(NPO経営支援21の活動を、ITC多摩が支援)  
経営者セミナー実施、経営者研修予定、IT経営応援隊発足準備中
- ・18年度: 青梅信用金庫  
連携企画

# 首都圏 金融機関を中心としたITC組織立ち上げ提案の背景

## 関東圏IT経営応援隊活動の現状

- ・関西地区、中部地区の活動に比べ、他と比較し、核となり支援してくれる機関(ソフトウェアセンターなど)がない。
- ・数多い、ITC届け組織が独自に悩みながら、進めているのが、現状である。
- ・ITCビジネスを生活の糧としながら、この種の活動をリードしていくには、個々のITCのパワーでは、困難がある。(ボランティア活動の限界)

## 金融機関連携強化プロジェクト応募の主旨

- ・個別に金融機関と接触し、少しずつではあるが連携の芽は出てきた。
- ・今後、個別ITC組織の活動でなく、各組織が連携し、ITCAの支援を得て、広い関東圏の一部ではあるが、金融機関から信頼される活動基盤作りが急がれる。

# 首都圏 金融機関を中心としたITC組織立ち上げ提案の背景

## 17年度三多摩地区のIT経営応援隊の試み

17年度、前述スライド1にある点線の八王子、立川、青梅地区を想定し、金融機関、市、商工会議所、産業振興機関との大きな体制を描き、活動をしたが、経営応援隊の主旨の理解をしてもらうことから始まり、ある意味では競合関係にある金融機関間の意見調整は至難の業であった。

## 18年度の新しい試み

17年度の試みから、経営応援隊の支援実働部隊(ITC組織、中小企業診断士支会、ITベンダー会等々)を構成メンバーとして活動できる体制作りを試みている。ここで、企画されたサービス機能を、後述スライド6に示す金融機関をはじめ、公的支援機関に提案し、活動を広げて行く。当プロジェクトでは、金融機関との連携に重点を置き活動を進める。

## 18年度の活動目的

1. 名古屋並み、中小公庫との信頼関係づくり  
(個々のITC届出組織の枠を超えて)
2. 地域金融機関との連携強化  
(ようやく、連携がはじまったが、油断すると消えかねない状況)

## 首都圏 金融機関を中心としたITC組織立ち上げ提案への要望

前述のように、目的は明確にしたが、未だ、具体的な活動は出来ていない。以下の活動の中で、情報交換、メンバーの知恵も頂きながら模索して行きたい。

### 1. 「地域ワークショップ」によるITC組織の横の情報交換

中小企業のIT経営支援の体制作りは、徐々にではあるが出来つつある。一方、金融機関をはじめ、支援機関が本気になったとき、ITC側の体制は万全か？否である。個々のITC組織では、パワー不足は否めない。

- ・関東圏は広すぎることもあり、多くのITC届出組織間の交流は少ない。  
当プロジェクトでは、ITC多摩、ITC武蔵野など任意団体に加え、ITC多摩を基盤としたNPO首都圏南西経営応援隊をはじめ、NPOIT経営推進機構、NPO経営支援21との連携強化を目指したい。もちろん、他の多くの組織へも参加を呼びかけたい。そうすると、全体取りまとめ、コーディネートはどう出来るかが大きな課題となる。ITCAの「地域ワークショップ」の支援が必須である。

### 2. 金融機関と積極的に連携している組織の「金融連携WS」による情報交換

何故、中部地区が活動が活発で、関東圏が、何故出来ないのか。その違いを明らかにし、具体的な策を探りたい。ITCAの「金融連携WS」での情報交換に期待する。